

◆担い手育成事業

沖縄水産高校との漁業就業支援連携

水産海洋技術センター 紫波俊介

1. 目的

学習支援NPO教室を沖縄水産高校と連携して実施する調整を行う中、四方俊晴教諭等より、卒業生への漁業就業支援を相談された。

今年度は沖縄水産高校での教育活動を支援することにより、同校生徒に対し、より広がりを持った水産教育を行う。

2. 方法

(1) 小学生への水産高校教諭のお魚教室

沖縄県立糸満青少年お家にて、真壁小学校5年生16名、教諭3名に対し、水産高校教諭が県産魚の説明・捌きかたを教え、生徒自ら夕食を作り、食べることで、水産への啓蒙、魚食普及を行う

(2) 糸満漁協へのインターンシップ事業

近年県内水産業への就業希望者が増えているが、水産高校があまり漁協と繋がりを持っておらず、就業に関わる機会がほとんど無かった。そのため、未来のマリンパワー確保・育成一環支援事業を活用し、糸満漁協とインターンシップを行う仕組み作りのため、水産高校・糸満漁協・県（普及班・栽培流通班）担当者会議開催と、各種調整を行った。

3. 結果

(1) 小学生への水産高校教諭のお魚教室

教諭1名がスクリーンを活用して手元を見せながら調理を進め、それに伴い生徒に教諭が付き添いながら生徒一人一人が魚を捌き、専用のト

レー、 balan 等を持ちながら、綺麗な盛りつけまで行った。

当方は魚の調達等を行った。

(2) 糸満漁協へのインターンシップ事業

担当者会議の結果、県事業を用いて海洋技術科2年生10名を対象に糸満漁協にてインターンシップが9月29日～10月9日に実施された。内容は大城等組合員が漁具作成、パヤオ操業体験を行い、漁具や魚群探知器等を用い操業を行い、また締め方、捌き方などを学習した。また経営状況等も船長より説明を行った。これらを踏まえて、「漁師になる夢に一步近づいた」「漁師になるのも良いな」という生徒が現れた。

4. 考察

(1) 小学生への水産高校教諭のお魚教室

スクリーンの活用、balan、造花、ツマ、容器等を揃え、食欲をそそる様な盛りつけまでさせる魚食普及は今後我々も取り入れて行くべきと思う。

(2) 糸満漁協へのインターンシップ事業

今回の結果、次年度以降も水産高校・糸満漁協にてインターンシップを行い、調整は漁協・高校のみで実施していく体制も整った。県事業が終了しても、何らかの形で就業支援が継続できる様、今後は漁業者の後継者育成への意識を高め、漁業者が自らの仕事として参加する機運を作りたい。



わくわくセカンドスクール真壁小学校お魚教室



沖縄水産高校・糸満漁協・県（普及班・栽培流通班）担当者会議